

# 国語研と統数研の連携起点「日本人の読み書き能力1948年調査」の 現代的意義

横山詔一， 前田忠彦（統計数理研究所）， 野山 広， 福永由佳， 高田智和

2020年9月29日（火）15時30分～16時30分  
NINJALサロン



国立国語研究所(NINJAL)



統計数理研究所(ISM)

## • どうしてこの発表を？

1. 野山：2019年4月に基盤研究（A）の研究代表者としてプロジェクトを開始
2. 前田先生：2019年4月野山科研の研究分担者に。同年同月横山も分担者（1951年報告書調査担当）として野山科研キックオフシンポジウムの準備に着手 → 新型コロナで延期に
3. 福永：「生活のための日本語」研究の一環で、リテラシーに関する情報収集を米国等で行う。2019年4月野山科研の研究協力者に。2020年2月ごろ横山が先行研究を調査しているとき偶然に福永論文と出会い、その縁でリテラシーに関する知見提供を横山が依頼
4. 高田：2007年に横山の依頼を受けて『日本人の読み書き能力』（読み書き能力調査委員会、1951、東京大学出版部）の国語研蔵書、国立国会図書館蔵書、北海道大学図書館蔵書の状態を比較、さらに同年9月10日（月）に東京大学出版会へ挨拶に出向き常務理事・竹中英俊氏と面談（横山陪席）、同会蔵書の状態を調査。2020年9月に野山科研の研究協力者に
5. 横山：2007年2月1日（木）に所命を受けて「日本人の読み書き能力1948年調査」の調査を開始、いくつかの疑問が頭に浮かんだが、現在も解答は得られていない [所命に関する年月日は相澤正夫国語研名誉教授の記録による]

附記）本研究は科学研究費補助金19H00627基盤研究（A）「基礎教育を保障する社会の基盤となる日本語リテラシー調査の開発に向けた学際的研究」（研究代表者：野山広）の成果である

- 『日本人の読み書き能力』（読み書き能力調査委員会，1951，東京大学出版部）の内容の一部を検討する
- これは『アメリカ教育使節団報告書』（マックアーサー司令部公表，1946）に端を発する
- 連合国最高司令官総司令部民間情報教育局（略称はGHQ/SCAP/CIE）の指示により1948年に実施された調査の報告書
- 全国規模調査の報告書であり，当時の言語生活の一端を伝える「言語生活資源」の一つ
- 言語政策に関する第1級の史料でもあるが，多くの謎が残されており，歴史学者や政治学者の協力を得ながら研究を継続する必要がある

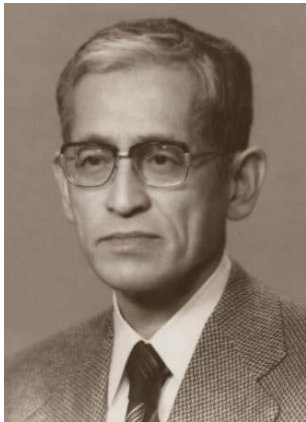
## きょうの流れ

1. 1948年調査は人材育成の場
2. だれに対して、いつ、どこで調査を実施したのか
3. 問題用紙はどのようなイメージだったのか
4. どのような結果が得られたのか
5. 歴史的背景：当時の雰囲気
6. GHQは分析結果をいつ手にしたのか（新しい知見）
7. チャンスレベル問題について（新しい知見）
8. 今後の課題

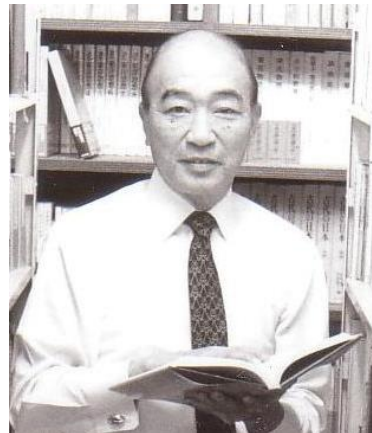
# 1. 1948年調査は人材育成の場

## 諸学界のビッグ・ネームを多数輩出

1. 科学的なリテラシー調査の起点は？
2. 日本における世論調査や選挙予測調査の起点は？
3. 大学入試センター試験などの大規模学力テストの起点は？（木村拓哉，2006）
4. UNESCOの出版物に掲載されたことがある日本のリテラシーに関するデータの原典はなに？
5. 国立国語研究所の起点は1948年12月20日，当時の仕事で最優先のものは？



柴田 武



林 知己夫

肥田野 直

- 前頁5項目すべてが「日本人の読み書き能力1948年調査」と密接に関係
- その報告書は『日本人の読み書き能力』（読み書き能力調査委員会, 1951, 東京大学出版部）
- 以下, 『日本人の読み書き能力』（1951）を「報告書」と略称することがある
- **連合国最高司令官総司令部（GHQ/SCAP）が提供した人材育成の場**



一つの幹から多くの枝が出ている  
愛媛県新居浜市一宮神社の一番楠  
根元に樹洞（じゅどう）がある

2. だれに対して, いつ, どこで調査を実施したのか



だれに対して調査を実施したのか？

配給台帳等に基づくランダムサンプリングによって抽出された「sampleさん」に対して実施

- sampleさんは何人だったのか？

21,008人, 21,000人, 17,100人, 16,820人, 16,814人と諸説あるが, 実際は以下の通り

1. 事前に21,008人を無作為抽出
2. 本調査に参加したsampleさんは 16,814人
3. 横須賀市でサンプリングをやり直してデータを入れ替えた
4. その結果, 本調査より6名増えて16,820人に (達成率80.0%)

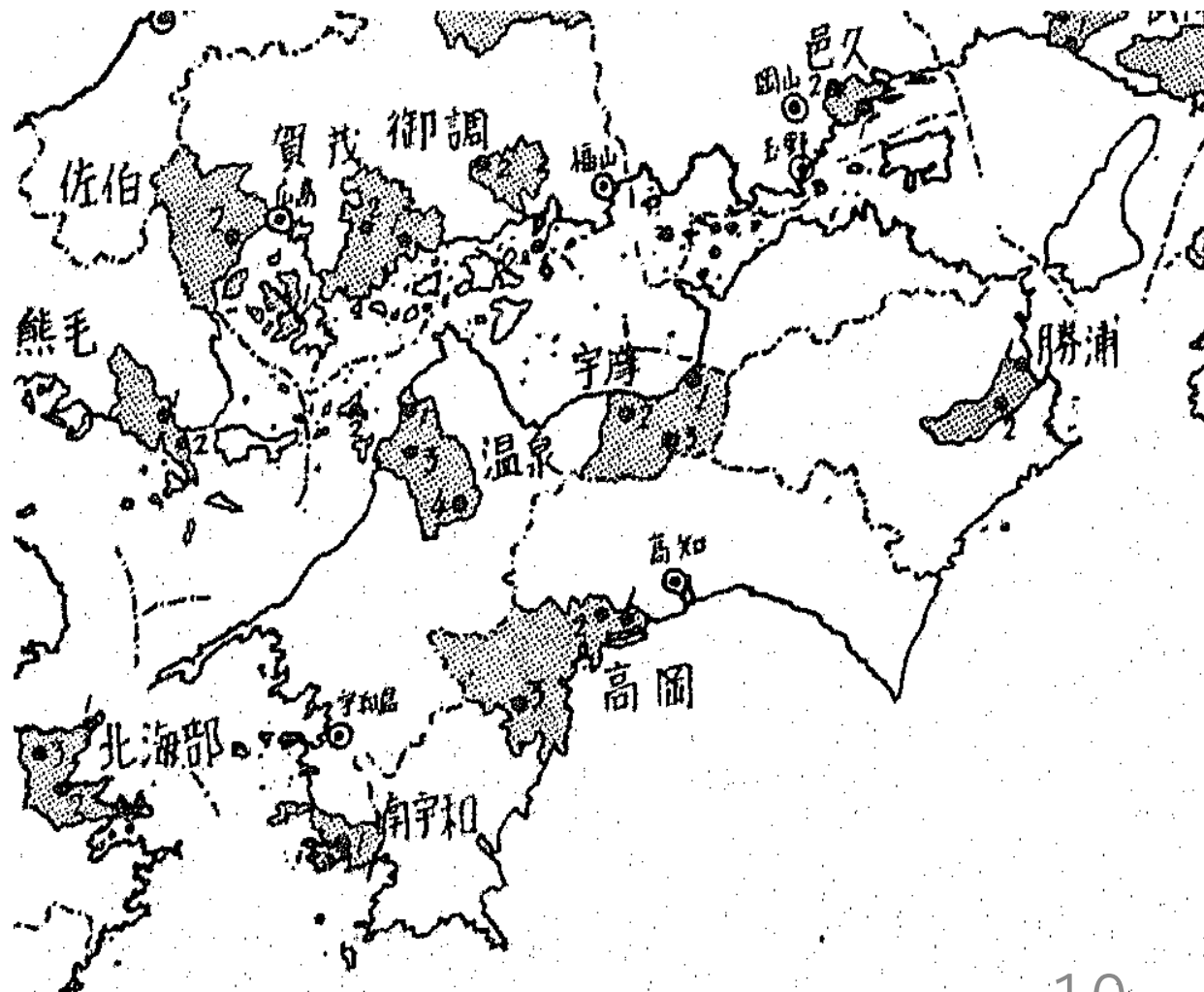
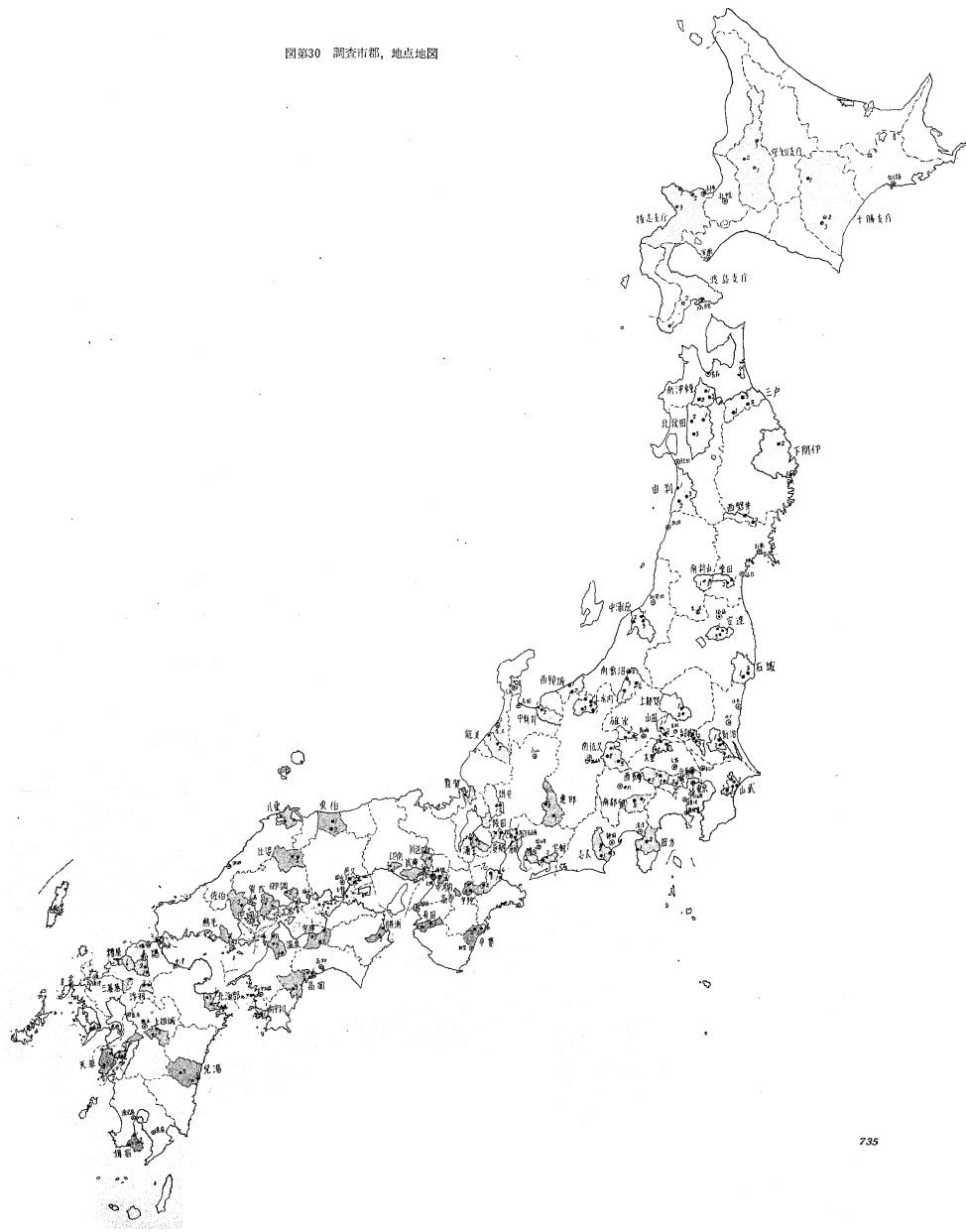
- sampleさんの年齢層や性別などは？

15歳から64歳までの男女, 全国規模で女性のデータを初めて収集 (先行研究に指摘なし)

・いつ、どこで調査したのか？

1. 1948年8月と9月，全国270地点で
2. ただし沖縄県や香川県などでは実施していない（先行研究に指摘なし）

図第30 調査市郡，地点地図



3. 問題用紙はどのようなイメージだったのか

どのような問題だったのか

試験官はどのように説明（教示）したのか

報告書のスキャン画像を示す



ネ	ネ	ネ	ネ	ネ	△
ヨ	コ	ビ	ロ	ユ	・

ガ	カ	ア	カ	ザ	△
ラ	ラ	ラ	ラ	ラ	・
ス	ス	ス	ス	ス	・

ミ	ミ	ミ	ミ	ミ	△
シ	シ	シ	シ	シ	・
ツ	レ	い	シ	ン	・

オ	オ	オ	オ	オ	△
モ	モ	モ	モ	モ	・
ツ	香	香	香	タ	・

マ	マ	マ	マ	マ	△
ア	チ	チ	ツ	ン	・
チ	チ	チ	チ	チ	・

九	入	八	七	四	×
円	円	円	円	円	・

8キ	3キ	4キ	5キ	1キ	×
口	口	口	口	口	・

あ	あ	あ	あ	あ	○
ひ	ら	ゆ	た	な	・
ま	ま	ま	ま	ま	・

さ	も	ち	な	き	□
る	る	る	る	る	・

た	た	た	た	た	□
は	ば	ば	が	ゾ	・
こ	こ	こ	こ	こ	・

み	み	み	み	み	□
か	か	か	か	か	・
む	し	ソ	ん	あ	・

こ	こ	こ	こ	こ	□
ん	ん	ん	ん	ん	・
に	に	に	に	に	・

あ	あ	あ	あ	あ	□
さ	さ	さ	さ	さ	・
て	て	て	て	て	・

(三)

たいしょう に ねん はちがつ にじゅうはち にち  
 ○大正2年8月  日

めいじ にじゅうはちねん くがつ じゅうろくにち  
 明治28年9月  日

(二)

●●●●	●●●	●●	●	○

●●●●	●●●	●●	●	○

(一)

○ 三丁目 さんちやうめ  
 五丁目 ごちやうめ  
 番地 ばんち  
 番地 ばんち

26.2cm

36.9cm

## 問題用紙の2枚目

- 問題4 試験官の発音した語を選択肢から選ぶ：表記は漢字，5択（10問）
- 問題5 漢字の書き取り（15問）

次のスライド参照



問題は90問，うち**選択式は65問（72%）** 4肢択一が19問， 5肢択一が46問

- 問題1 試験官が発音した語をひらがな，カタカナで書く（8問）
- 問題2 試験官が発音したアラビア数字，漢数字を書く（2問）
- 問題3 試験官が発音した語を選択肢から選ぶ：表記はひらがな，カタカナ，アラビア数字，漢数字，**5択（12問）**
- 問題4 試験官が発音した語を選択肢から選ぶ：表記は漢字，**5択（10問）**
- 問題5 漢字の書き取り（15問）
- 問題6 意味が通じる語を選択肢から選ぶ：表記は漢字，**4択（15問）**
- 問題7 語の意味を選択肢から選ぶ：問題語の表記は漢字，選択肢はひらがな，カタカナ，ルビ付き漢字，**5択（15問）**
- 問題8 読解問題で正答を選択肢から選ぶ：問題文は漢字仮名交じり，選択肢は**5択（9問）**，**4択（4問）**

問題の実像から分かること

1. 問題3の**アラビア数字は簡単そう**に見える
2. 横山が2020年2月に問題に取り組んだところ89点であった（**満点ではない**）



4. どのような結果が得られたのか（15時40分～15時50分）

## どのような結果だったのか？

配点は90問すべて1問1点，すなわち正答数が得点

1. 得点ゼロだった人は1.7%，90点満点だった人は4.4%（下の表）
2. 全体（N=16,820）の得点分布はJ字型（次頁の図1参照）

code		19	18	17	16	15	14	13	12	11	10	09	08	07	06	05	04	03	02	01	00	
点 数		90	89 85	84 80	79 75	74 70	69 65	64 60	59 55	54 50	49 45	44 40	39 35	34 30	29 25	24 20	19 15	14 10	09 05	04 01	00	計
全 国	市部	372 6.9	1921 35.6	1042 19.3	594 10.9	355 6.6	247 4.6	143 2.7	117 2.2	81 1.5	62 1.2	63 1.2	57 1.1	62 1.2	53 1.0	41 0.8	36 0.7	40 0.7	31 0.6	15 0.3	50 0.9	5382 100.0
	郡部	360 3.1	2559 22.4	1981 17.3	1381 12.1	1004 8.8	717 6.3	547 4.8	443 3.9	357 3.1	271 2.4	251 2.2	220 1.9	226 2.0	199 1.7	175 1.5	177 1.5	134 1.2	92 0.8	101 0.9	243 2.1	11438 100.0
	地域	732 4.4	4480 26.7	3023 18.0	1975 11.7	1359 8.1	964 5.7	690 4.1	560 3.3	438 2.6	333 2.0	514 1.9	277 1.6	288 1.7	252 1.5	216 1.3	213 1.3	174 1.0	123 0.7	116 0.7	293 1.7	16820 100.0



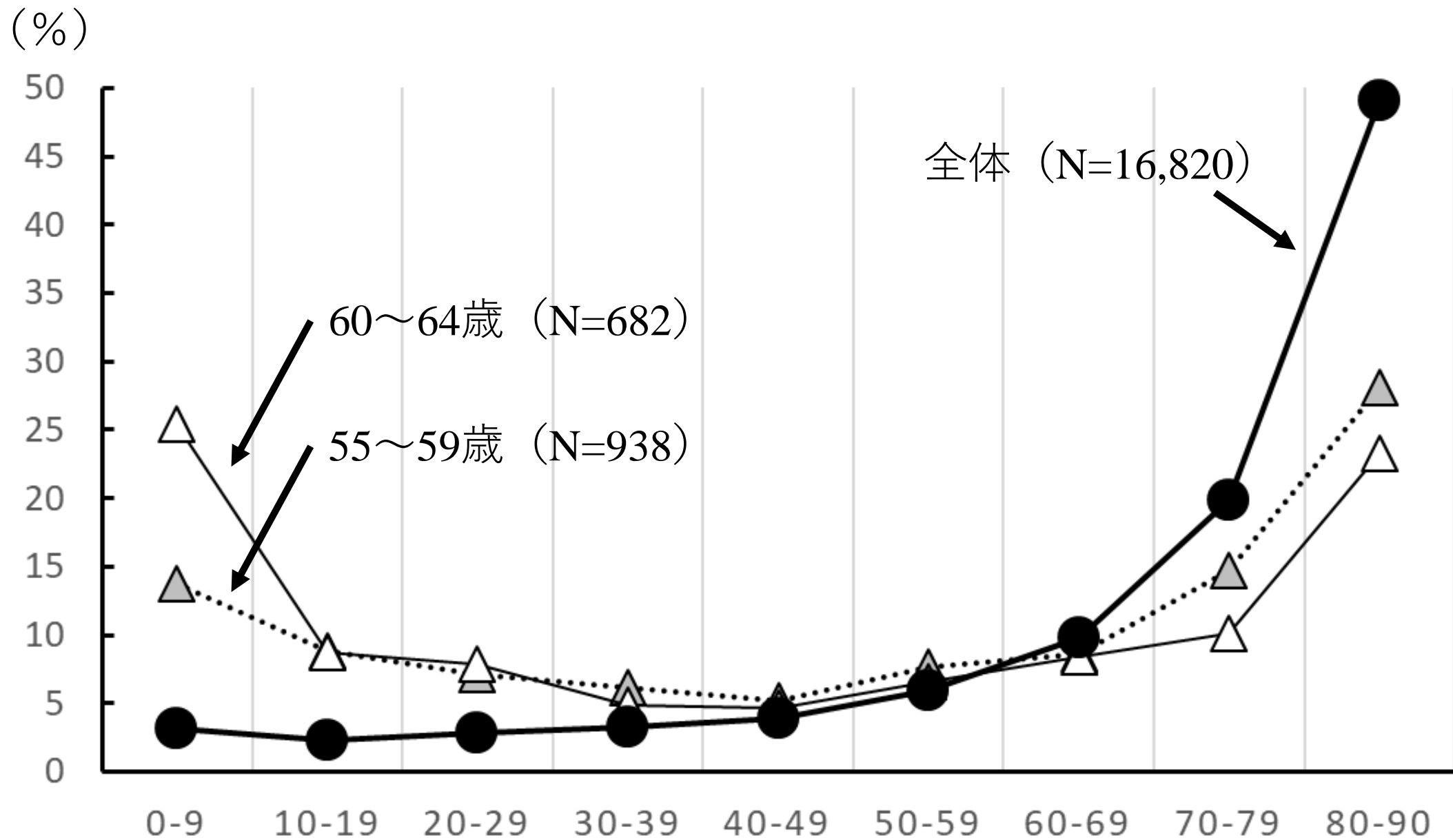


図1 得点分布 (全体 / 55歳から59歳 / 60歳から64歳)

- ・ 報告書に示された結果は？

要点は以下の2つ

1. 日本でliteracyを持つと見なせる識字者は「90点満点」の4.4%であるが、不注意などによる失点を考慮して割合を補正した結果、6.2%となった

2. 非識字者（完全文盲）は「ゼロ点の人」で、その割合は1.7%であった

- 報告書の締めくくりとして「提案」（報告書429頁）が明記されている：  
次のスライドで原文の一部を示す

## §92 提 案

日本では、義務教育がよく普及し、就学率も極めて高く、国民教育のために払った努力も従来極めて大きなものであった。このために、まったく字の読み書きができないという者は極めて少ないのであるが、それにもかかわらず、「正常な社会生活を営むのにどうしても必要な文字言語を理解する能力」は決して高いとはいえない。literacy を持つといえる者は 6.2% にすぎない。学歴でいえば、高等専門学校を出なければ十分ではないということになる。読み書き能力に影響を及ぼす文化的要因のうち、教育的要因がもっともいちじるしかった。学校へさえ行けば、しかも長く行けば行くほど読み書き能力は高まるのである。しかもその能力は年をとってもおちない。

## 5. 歴史的背景：当時の雰囲気（15時55分まで）

## 歴史的背景：当時はどんな雰囲気だったのか



1945年8月30日14時05分，厚木海軍飛行場に到着  
これから横浜市のホテルニューグランドに向かう



1954年ニューヨーク市にて  
吉田茂と腕を組んでいる

マッカーサー日本到着時のカラー映像

[https://www.youtube.com/watch?v=5\\_mhHXmNupw](https://www.youtube.com/watch?v=5_mhHXmNupw)

調査はGHQの指示によって開始：企画したのは**ペルゼル氏**（John Campbell **Pelzel**）

1. 1914年7月25日生まれ，1999年10月18日に没（85歳）
2. 大学，大学院修士で**日本語などを勉強**
3. アメリカ軍の**海兵隊員**だった時期もある
4. 太平洋戦争中は対日本の情報分析にあたっていた
5. 終戦後，東京のGHQ/SCAP/CIE（連合軍最高司令官総司令部民間情報教育局）で**世論社会調査課長・部長**
6. **調査翌年の1949年にアメリカに帰国**，大学院博士課程に進学：当時35歳
7. **ハーバード大学教授**を長く務める
8. 報告書刊行は1951年。よって，ペルゼル氏が報告書に寄せたローマ字によるメッセージはアメリカで書いたものか？



『日本人の読み書き能力』（1951）の執筆において国語研と統数研の研究者が中心的役割を果たした：赤字で示す

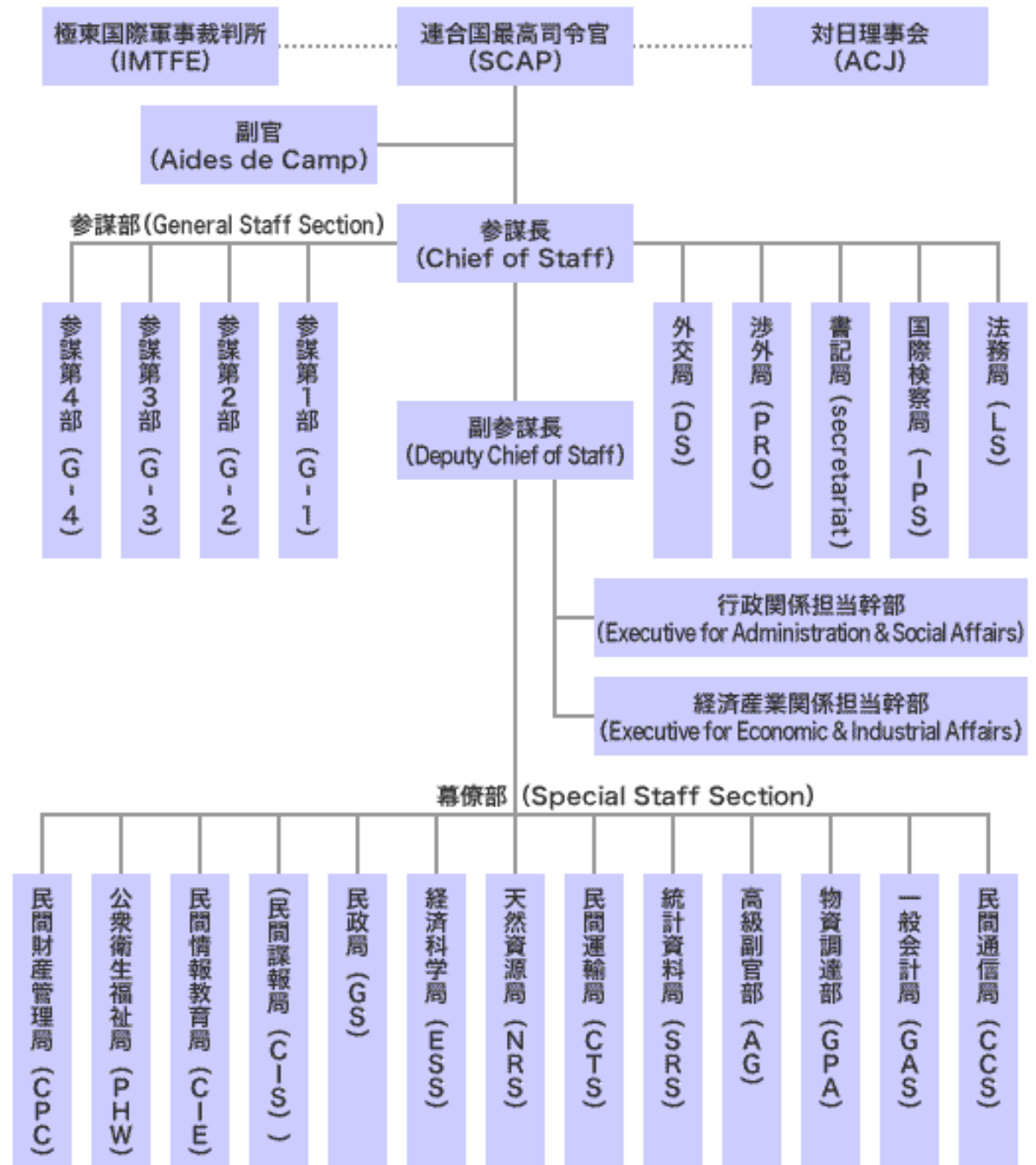
- ・ 連合国（軍）最高司令官総司令部民間情報教育局（GHQ/SCAP/CIE）→ 企画  
J. ペルゼル（John C. Pelzel）, V. エドミストン（Vivian Edmiston）, 河野六郎（言語学）, **西平重喜（統計学）** など
- ・ 中央企画分析専門員会（略称, 専門委員会）→ 報告書執筆  
委員長は石黒修（いしぐろ・よしみ, 国語教育学）  
委員は**柴田武（言語学）**, **金田一春彦（国語学）**, 城戸幡太郎（きど・まんなたろう, 報告書には教育学とあるが実際は心理学）, 梅津八三（心理学）, **林知己夫（統計学）**, **白石一誠（統計学）**, 影山三郎（新聞・雑誌, 朝日新聞記者）の7名  
さらに助手が21名いた。そのなかの4名を次に示す。北村甫（言語学）, **野元菊雄（言語学）**, 島津一夫（心理学）, 肥田野直（心理学）

6. GHQは分析結果をいつ手にしたのか（新しい知見, 16時05分まで）

# General Headquarters, Supreme Commander for the Allied Powers GHQ/SCAP 連合軍最高司令官総司令部

## データ処理能力を示す史料

- 民間情報教育局CIEが担当した読み書き能力調査16,820人分のデータは、経済科学局ESSにあった**IBM社製の統計計算機械**によって高速処理された（報告書33頁，418頁）
- 実査が完了して3ヶ月後の**1948年12月22日**には年齢と総得点のクロス集計表がペルゼルの発注によって出力されている（報告書807頁，次頁のスライド参照）
- これは報告書（1951）には掲出されていない，より詳細なクロス集計表



図第102 I. B. M. Tableの一例 (II)

関西の市部における年齢と得点段階のクロス表

Title: LITERACY TEST

Test Grades - Table IX 17 - Kansai - Urban

Requested by: Mr. Pelzel

IBM Report No. 95-491-19008

Completion Date: Dec. 22, 1948

Age	No. of Testees by Total Score Grades																				
	Total	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
0	338			1		2	4		4	6	8	5	4	13	12	26	38	58	76	76	5
1	251					1	1		1			1	2	2	3	7	9	18	48	132	26
2	202			1		1	1		2		1	1	5	1	4	4	9	21	33	98	80
3	184				1	2		1		2	2	1	2	4	2	5	8	21	35	81	17
4	215	2			2	1	1			2	4	3		3	13	8	11	17	44	83	21
5	144			1	1	2		6	3	1	3	1	2	1	6	6	8	13	32	55	3
6	130	1	3	1	2	2	1	2	7		1	6	5	3	7	9	10	12	14	39	5
7	101	2	1	1	4	1	4	1	3	2	2		4	4		7	8	12	16	27	2
8	84	6	2	2	3	1	1		3	1	2	1	2	5		8	7	10	12	18	
9	72	9	1	5	4	4	4	3	4		3	3	2	1	1	3	1	3	11	9	1
	1																				1
	1722	20	7	12	17	17	17	13	27	14	26	22	28	37	48	83	109	185	321	619	100

関西の市部における年齢と得点段階のクロス表

Requested by: Mr. Pelzel

Completion Date: Dec. 22, 1948

14	15	16	17	18	19
6	38	58	76	76	5

図第103 I. B. M. Tableを書き直した表

第17表

年齢別総得点の表

関・西一市郡

年齢 得点	総得点で分類した sample さんの数																				
	合計人数	0点	1-4	5-9	10-14	15-19	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	45-49	50-54	55-59	60-64	65-69	70-74	75-79	80-84	85-89	90点
15-19歳	338			1		2	4		4	6	8	5	4	13	12	26	38	58	76	76	5
20-24	251					1	1		1			1	2	2	3	7	9	18	48	132	26
25-29	202			1		1	1		2		1	1	5	1	4	4	9	21	33	98	20
30-34	184				1	2		1		2	2	1	2	4	2	5	8	21	35	81	17
35-39	215	2			2	1	1			2	4	3		3	13	8	11	17	44	83	21
40-44	144			1	1	2		6	3	1	3	1	2	1	6	6	8	13	32	55	3
45-49	130	1	3	1	2	2	1	2	7		1	6	5	3	7	9	10	12	14	39	5
50-54	101	2	1	1	4	1	4	1	3	2	2		4	4		7	8	12	16	27	2
55-59	84	6	2	2	3	1	1		3	1	2	1	2	5		8	7	10	12	18	
60-64	72	9	1	5	4	4	4	3	4		3	3	2	1	1	3	1	3	11	9	1
不明	1																			1	
合計人数	1722	20	7	12	17	17	17	13	27	14	26	22	28	37	48	83	109	185	321	619	100

- ✓ ペルゼルは1948年12月22日（実査完了後の3ヶ月後！）の時点で詳細なクロス集計表を手にしていた
  - ✓ 当然，上層部にもすぐに報告したはず
  - ✓ 報告書（1951）のクロス集計表はGHQが持っていた情報の一部，すなわち簡略版と考えられる
1. GHQはパンチカードでデータを読み取るIBM統計計算機械を利用してデータを処理（IBMの社員数名が支援，報告書に氏名記載）
  2. 統計計算機械とはIBM402のことか？ [https://en.wikipedia.org/wiki/IBM\\_402](https://en.wikipedia.org/wiki/IBM_402)
  3. 日本側はIBM統計計算機械の（ライン）プリンタ出力を受取り，それを和訳して原稿を執筆（データ処理において汗をかいていない）
  4. 日本側は計算尺やタイガー式手回し計算器ぐらいしか持っていなかったため，自力でクロス集計表を作成するなど到底無理，夢物語

7. チャンスレベル問題について（新しい知見, 16時15分まで）



## ここで疑問点を3つ指摘する

1. 90点満点の人を識字者と定義すると、89点の横山は識字者ではないと判定されてしまう（国語研にいて大丈夫なのか）
  - 「識字者」と判定すべき人を見逃しているのでは？
2. 選択式問題が多いので、適当に選択肢を1つ選んだ場合でも10問以上は正答になりそう。ゼロ点を取るのはきわめて難しいのでは？
  - 実際は得点ゼロだった人が1.7%すなわち60人に1人も存在。どんな人だったの？
  - 計量国語学会第64回大会（2020年9月19日）に発表済み、ゼロ点の人のうち大部分（94%）を「白紙回答の人」が占めていたと推測される根拠を示した
3. ゼロ点の人を非識字者と定義した結果、非識字者率は1.7%であったとされているが、その判定基準はまったくおかしいのでは？
  - 「非識字者」と判定すべき人を見逃しているのでは？

きょうは次の点を検討する

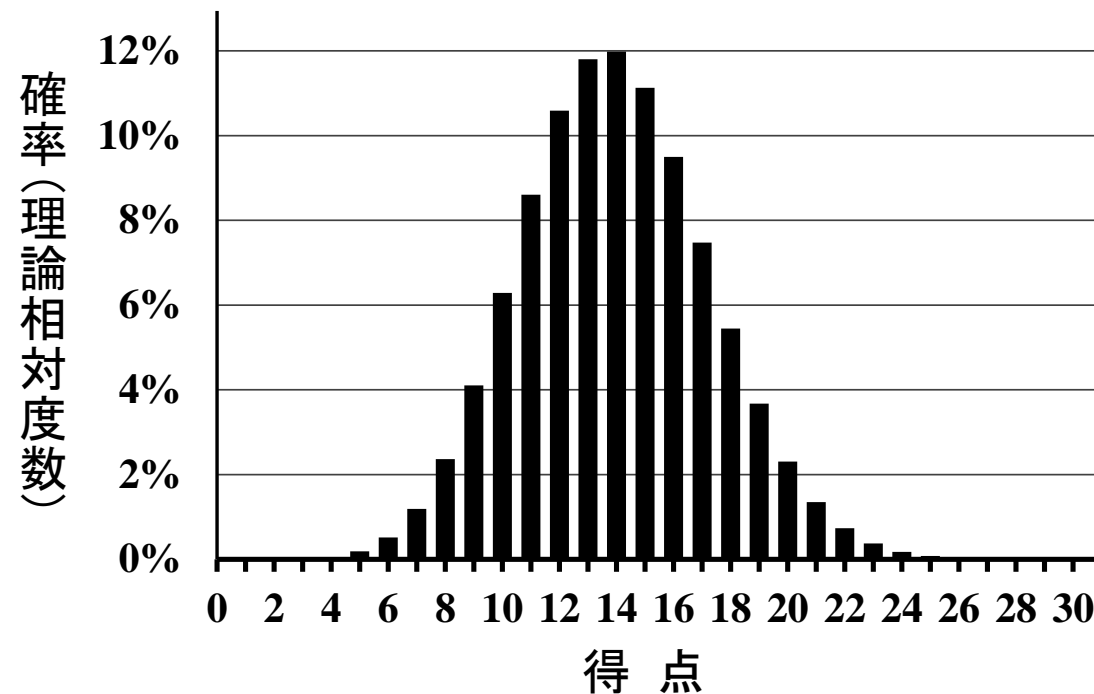
3. ゼロ点の人を非識字者と定義した結果、非識字者率は1.7%であったとされているが、その判定基準はまったくおかしいのでは？
  - 「非識字者」と判定すべき人を見逃しているのでは？

## 非識字者でも選択肢の配置は理解できるようになっていた

- 選択式問題に回答する際、インフォーマントは選択肢の一つに○を付けるよう試験官から口頭と黒板への板書で説明を受けた

のうちの、どれにあたるかを答えてもらいます。たとえば、わたくしが「あたま」(調査者ジシンノ頭ヲ示ス)といいましたら、この五つのうち(黒板デ示シナガラ)から、「あたま」という字を見つけて○<sup>マル</sup>でかこむのです(黒板ニ示ス)。それでは、これはためしですから、みなさまも鉛筆を持って「あたま」という字を○でかこんでみてください。いいですか。一度つけた○を直したいときには、それを×<sup>バツ</sup>じるしで消し、正しいと思うほうを○でかこんでください。

- 選択式問題は当て推量（guessing）や勘で選択肢を選んだ場合でも**偶然に正答することがある** [難しい問題は適当に○をつけよう！]
  1. 偶然に正答する確率の程度を「**チャンスレベル**」という
  2. 選択式問題65問のすべてにおいて当て推量で選択肢を選んだ場合，得点は何点ぐらいになるかを複合2項分布で計算
  3. 分布は正規分布（ベルカーブ）に近い形



複合2項分布による具体的な計算法や計算結果の数表などは

日本語学会秋季大会2020年10月24日（土）C-2で発表します

## 非識字者の判定基準

1. 複合2項分布を用いた確率計算により、4割以上の人が偶然に15点以上を取れることがわかった
2. 統計的検定論に当てはめて解釈すると、15点の人は「非識字者のチャンスレベルにある＝非識字者のカテゴリーに含めるのが妥当」
3. 上記方法によると、25点以上を偶然に取れる確率は0.133860%
4. 偶然に25点以上を取れるのは800人に1人ぐらいなので珍しいことが起きたと解釈、つまり有意
5. このような場合、統計的検定論では24点以下を非識字者と判定する基準を立てる

## 非識字者率の推定

1. 以上の理論枠にしたがって報告書に掲出されているデータから該当する人の割合を求めると**6.7%**に
  2. これが当時の**非識字者率の推定値の上限**を与える
  3. 実際は非識字者の全員が選択式問題のすべてに対して回答したとは考えられない
  4. しかし「非識字者のチャンスレベルを統計的に有意に上回っている人だけを非識字者ではないと解釈する立場」を排除することは合理性を欠く
  5. **非識字者率は定説の「1.7%」ではなく「6.7%」と考えるべき**
- ✓ 以上のことを「**チャンスレベル問題**」とよぶ

## 1948年調査が「現代の日本語に及ぼした影響」について

- 東京大学出版会の見解を『UP』36巻6号（2007年6月15日発行）の49頁「ことば言葉コトバ」から引用する
  1. この見解は世間で広く共有されている認識の典型例
  2. その認識は論理的整合性を有するのか？

過日、「言語が開く公共世界」をテーマとするフォーラムが催された。それは日本語を主要な対象にモンゴル・中国・韓国出身者も加わり、日本語を用いての会で、戦後日本の国語政策についても活発な議論が行われた。その中で『日本人の読み書き能力』という本の名前があがった。1951年初版，B5判736頁，東京大学出版部刊。

これは占領下の1948年3月にGHQ民間情報教育局のペルゼル博士（ハーヴァード大学）を主査とした日本語改革検討の一環として結成された委員会による調査の報告書である。日本側は国立教育研修所が対応、石黒修をはじめ林知己夫、柴田武、野元菊雄ら少壮気鋭の研究者を集めたほか、新聞人も参加。同年8月全国一斉に実施された調査は、結果として日本人のきわめて高い読み書き能力（リテラシー）を証明し、一部に伝えられた日本語のローマ字化の企図を阻んだと評価された。小会創設早々の記念碑的出版物である。



GHQが企図した日本語のローマ字化を，この報告書が阻止したという説は正しいのか？

- 繰り返しになるが，報告書（429頁）には『まったく字の読み書きができないという者は極めて少ないのであるが，それにもかかわらず，「正常な社会生活を営むのにどうしても必要な文字言語を理解する能力」は決して高いとはいえない。literacyを持つといえる者は6.2%にすぎない。』とある
- 上記の一文をどう読むか？
  1. まったく字の読み書きができないという者は極めて少ない〔数値なし〕
  2. literacyを持つといえる者は6.2%にすぎない

上記「2」は識字率が低いと言っているようなもの

すなわち，ローマ字化を阻止するのではなく，むしろ推進するための根拠を提供している → **報告書（1951）がローマ字化阻止に寄与したとは言えないだろう**

## 今回の研究のまとめ

- 「ゼロ点の人」を非識字者と定義することの問題点を示し、「チャンスレベル問題」と命名
- そして、当時の非識字者率は上限で6.7%程度と決して低くなかった可能性があるという見方も成立することを明らかにした
- 報告書が採用した判定基準は、**識字者の割合を過小評価するだけでなく、非識字者の割合も過小評価する方向に設定されていたと結論づけて大過ない**

## 今後の課題

- 選択式問題についてはチャンスレベルを考慮する必要があることはよく知られているのに、報告書公刊の1951年から2020年現在に至るまでその点を指摘した研究は皆無である
- 報告書の執筆者の一人であった林知己夫がこの点に気づかないわけがない、肥田野直やペルゼルも同じ
- ✓ なぜこの問題が69年間も放置されてきたのか？
- 報告書（1951）に接する機会がない，読もうとしても難解な表現が頻出する
  1. 国語研の蔵書をデジタル化して公開してはどうか（2021年4月に出版から70年をむかえる）
  2. 難解な表現の言い換えや説明が必要（注釈など）
  3. 歴史学者や政治学者の協力を得ながらGHQ内部文書を分析して事実にもせまる必要がある

# 文献調査団の有志を募集すべきか？人は集まるだろうか？

1948年調査の本質を知るには、  
GHQ/SCAP内部文書の記述を確認すべき

- 有力な手掛かりとして国立国会図書館のデータベースがある
- 1. 「NDL ONLINE」にアクセス  
<https://ndlonline.ndl.go.jp/#/>
- 2. 「キーワード」→「詳細検索」,  
「その他」→「日本占領関係資料」
- 3. 「タイトル」→「literacy」で検索すると48件ヒット
- 報告書の章立てと一致する文書が存在する可能性が高い
- 憲政資料室のマイクロフィッシュを調査する必要がある

-  Literacy Research: Final Test Questions (文書名:GHQ/SCAP Records, Civil Information and Education Section = 連合国最高司令官総司令部民間情報教育局文書) (課係名等:Public Opinion & Sociological Research Division) (シリーズ名:General Subject File, 1946-51) (ボックス番号:5913 ; フォルダ番号:35)  
文書・画像類 / 日本占領関係資料 ?-? <CIE(B) 07729-07730>
-  Literacy Research: Instructor's Manual (文書名:GHQ/SCAP Records, Civil Information and Education Section = 連合国最高司令官総司令部民間情報教育局文書) (課係名等:Public Opinion & Sociological Research Division) (シリーズ名:General Subject File, 1946-51) (ボックス番号:5913 ; フォルダ番号:33)  
文書・画像類 / 日本占領関係資料 ?-? <CIE(B) 07726-07727>
-  Letters Re Literacy Testing (文書名:GHQ/SCAP Records, Civil Information and Education Section = 連合国最高司令官総司令部民間情報教育局文書) (課係名等:Education Division ; Special Project Branch) (シリーズ名:Educational Research File, 1941-51) (ボックス番号:5436 ; フォルダ番号:99)  
文書・画像類 / 日本占領関係資料 ?-? <CIE(A) 03314>
-  IBM Table Description - Literacy Research (文書名:GHQ/SCAP Records, Civil Information and Education Section = 連合国最高司令官総司令部民間情報教育局文書) (課係名等:Public Opinion & Sociological Research Division) (シリーズ名:General Subject File, 1946-51) (ボックス番号:5915 ; フォルダ番号:1)  
文書・画像類 / 日本占領関係資料 1948.10-1948.10 <CIE(B) 07772>

# 1948年読み書き能力調査の遺物は国語研資料庫にも1箱眠っている

<https://rnr.ninjal.ac.jp/materials/fo0161/>

<p>資料作成組織の履歴 Administrative / Bibliographical history</p>	<p>専門員長: 教育研修所研修員 石黒修                  専門員: 柴田武 金田一春彦 城戸幡太郎 梅津八三 白石一誠 林知己夫 影山三郎 白石大二                  助手: 北村甫 都竹通年雄 満田新一郎 松樹美代治 島津一夫 肥田野直 村瀬隆二 馬場四郎 岩井弘融 堤光臣 藤沢大仁 針ヶ谷正男 高山二郎</p> <p>1948年にGHQの民間情報教育局(CIE)と教育研修所が中心になり読み書き能力調査委員会をつくり、日本人の読み書き能力調査を行ない、15歳-64歳までの男女16,820人を調査した。                  1951年に『日本人の読み書き能力』を出版。編集出版委員は、石黒修 柴田武 島津一夫 野元菊雄 林知己夫。</p>
<p>資料作成年月日 Dates of accumulation of the material in the unit of description</p>	<p>1948 - 1949</p>
<p>管理歴 Custodial history</p>	<p>西が丘庁舎 第1資料庫から中央資料庫へ</p>
<p>入手情報 Immediate source of acquisition</p>	
<p>資料内容 Scope and content / Abstract</p>	<p>発端 今までの調査及びふりかえって見た経過等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・読み書き能力委員会(編成)</li> <li>・リテラシー企画</li> <li>・統計日誌</li> <li>・読み書き能力の報告の構成 1949.7.8</li> <li>・行政区画変動による素図索引訂正表</li> <li>・昭和14年度壮丁教育調査概況 文部省社会教育局</li> <li>・ギリシャにおける調査, 専門員業務経過, アルバイト使用状況(原稿)</li> <li>・LITERACY RESEARCH PROGRAM</li> <li>・プリント(SCHEDULE, Report Construction of Reading and wrighting Ability Test), (SAMPLING OF RESPONSE ANALYSIS)</li> </ul> <p>Design(リテラシー調査に於けるサンプリングの計画 等)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・概要 リテラシー調査に於けるSamplingの計画</li> <li>・読み書き調査抽出都市町村名</li> <li>・[年齢層別 地方別等割当枚数]</li> <li>・Report関係(一般全般, 小田原 等)</li> </ul> <p>Hityousasha no Kosei to Sono Heikinten(TUZUKI)'49n7gt (第29-54表) 被調査者の構成とその平均点</p>

参考：CIAも世界各国の識字率の情報を公開しているが日本は非掲載  
<https://www.cia.gov/library/publications/the-world-factbook/fields/370.html>

**CENTRAL INTELLIGENCE AGENCY**  
THE WORK OF A NATION.  
THE CENTER OF INTELLIGENCE.

Report Information Contact

Search CIA.gov... SEARCH

عربي 中文 Français Русский Español More ▶

HOME ABOUT CIA CAREERS & INTERNSHIPS OFFICES OF CIA NEWS & INFORMATION LIBRARY SPY KIDS

**WORLD FACTBOOK**

**The World Factbook Update for August 13, 2020**

Most of the northern third of Africa is barren desert - the massive Sahara. Did you know that much of the southern part of the continent is also desert or semidesert? **READ MORE →**

CONNECT WITH CIA

Twitter Facebook YouTube Instagram RSS Email

●●●●●○●||

ご清聴, ありがとうございます

## 祝！国立国語研究所創立72周年

1. 文系分野で国立の研究所（博物館や資料館ではなく）が70年以上存続しているという事実は、心理学などから見ると特別なことだと感じます
2. なぜ「特別なこと」が実現できたのでしょうか
3. きょうは国立国語研究所のルーツを探ってみました